

令和4年度上牧町総合計画等外部検証委員会（第2回）
会議録

【日時】 令和4年11月25日（金）13：30～16：30

【出席者】 委員 10名（中山委員、鶴谷委員、木内委員、東委員、渡邊委員、東谷委員、迫委員、岩井委員、岩脇委員、阪本委員）

担当課 （文化振興課） 3名 （教育総務課） 4名
（社会教育課） 4名 （まちづくり推進課） 5名

【欠席者】 委員 4名（山田委員、康村委員、濱田委員、鐵東委員）

【傍聴人】 0名

【事務局】 5名（中川部長、中本課長、土井課長補佐、高野主事、梅野主事補）

1. 開会

- ・10名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

2. 議題

（1）検証の進め方について

- ・事務局から検証の進め方について説明

（2）上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

○文化振興課

【6.子どもの読書活動の推進】

担当課：＜「6.子どもの読書活動の推進」について説明＞

東谷委員：この事業を行うことで実際に町内の子どもたちの読書量がどれだけ増えているかを読み取ることができないので、わかるように工夫してはどうか。例えば、1ページを1ポイントに換算し、10000ポイントたまったら表彰状や認定証を渡すような取組をしている自治体がある。子どもに限って行うことが難しければ、保護者とペアまたは家族でポイントを集めるなど工夫することもできる。ゲーム感覚で取り組むことができ、成果も図りやすいのではないかと。

担当課：子どもたちの読書量をきちんと把握できているわけではないが、図書館では「読書手帳」を発行している。手帳にシールを貼ることを励みに親子で借りてくださる姿もあるので、意見を参考に工夫していきたい。

○教育総務課

【1. ICTを活用した教育支援】

担当課：＜「1. ICTを活用した教育支援」について説明＞

副委員長：機器の不具合等発生時に対応できる予備の端末は十分に確保できているか。

担当課：確保しており、現在のところ対応できている。

副委員長：数年後に買い替えの時期がくるという認識でよいか。

担当課 : 令和 2 年度に配備し、対応年数が 5 年程度なので、令和 8 年度に更新時期を迎える。令和 2 年度は補助があったが、今後はそういうわけにはいかないと思うので、要望していく必要が出てくる。

副委員長 : フリースクールも ICT 化を進めるということだが、要望があるのか。

担当課 : フリースクール自体は、子どもの居場所作りを目的としたものであるが、学校復帰を目指す児童生徒もいる。そのような子どもたちがスムーズに学校復帰できるよう、学校に慣れていく目的で、先生とも話しながら進めていくのがよいと考えている。

委員長 : フリースクールは、町が行うのか。

担当課 : 町主体で 9 月からスタートしている。インターネット環境は整っているが、学校とつなぐには至っていないので、進めていきたい。

委員長 : KPI については、具体的にどのような内容か。

担当課 : 学力・学習状況調査については、学力調査の他に、学校や家での様子等についてアンケート形式で問う「学校質問紙調査」があり、その中の ICT の利用状況についての問いに対する肯定的な回答の割合を示している。

委員長 : 目標が県の平均以上だが、実績は県の平均以下であったということではどうか。

担当課 : そのとおりである。今後は、この数値を上げていけるような取組を進めていきたい。

東谷委員 : シートの取組内容が「ICT を活用した教育支援」となっているので、児童生徒、園児を対象とする必要があると思うが、教員の資質向上や機器の普及状況等が主に示されている。今後は、学級閉鎖等で授業ができない時に ICT を活用して授業時数を確保したことを含め、ICT 教育が拡大されていることがわかる形で表現してはどうか。実際に子どもたちがどのくらい使用し、どのくらいの効果が出ているか示してほしい。

担当課 : 令和 3 年度は、一挙に環境が整った段階で、子どもたちに一定の効果を求めるというよりは、指導にあたる先生方のスキルを底上げしていこうということで、目的を設定していたので、このような取組になった。段階的に進めていきたい。

【9. 英語教育の充実】【10. 体育教育の充実】

担当課 : <「9. 英語教育の充実」について説明> <「10. 体育教育の充実」について説明>

委員長 : 上牧町には、就学前の教育施設は何か所あるか。

担当課 : 公立幼稚園は、上牧幼稚園 1 園。私立幼稚園は、片岡台幼稚園 1 園。公立保育園は、第一保育所 1 所。認定こども園は、ない。私立保育園は、3 園。

委員長 : この内容は、公立幼稚園のみでの取組か。

担当課 : そのとおりである。

委員長 : 私立幼稚園でも同じような取組があるか。

担当課 : 把握できていない。

委員長 : 上牧町の事業としては、公立の上牧幼稚園のみを対象としているということか。公立保育園はどうか。

担当課 : 担当課が異なるため、把握できていない。

委員長 : 趣旨からすると、公立幼稚園に限定するような内容ではなく、町内すべての園児に当てはまるものだと思う。公立幼稚園に通っている子どもは、比率からすると少ないので、気になるところである。

東谷委員 : 「専門家を招き」とあるが、どういった専門家か。

担当課：委託先に体育大学出身者等が在籍しており、派遣していただいている。

東谷委員：資格を所有している等の制限は、ないか。

担当課：委託先から体育大学卒業者として紹介を受けているので、資格の制限はない。

【12. 通級指導教室（ペガサス教室）の充実】

担当課：＜「12. 通級指導教室（ペガサス教室）の充実」について説明＞

副委員長：他町にくらべて本町の利用者が多いのはなぜか。

担当課：開催地であるため、本町の児童生徒が利用しやすい環境にある。

副委員長：利用者数が今後増えていくという見通しか。目標値4人ということで設定されているが、十分か。

担当課：週1回1時間程度で指導しているが、時間や回数を増やしてほしいという要望があるので、指導者の充実が必要であると考えている。

副委員長：中学校の方もニーズがあるという認識か。

担当課：通級指導教室は、小学校においては4町で取り組んできたが、令和3年度からは広陵町、令和4年度からは王寺町が独自で立ち上げられたので、現在は本町と河合町の2町で行っている。中学校においては、令和2年度に本町のみで開設した。小学校から連携して指導を受けたいといった要望があるが、小学校ほど充実した運営がまだできていない。

副委員長：現状として、指導員は充実しているということか。または、見つけるのが難しい状況か。

担当課：小学校においては、最低でも今の人数を維持し、県へ教員の配置を要望していかなければならない。中学校においても、充実した体制を整えるためには、教員を増やしていかなければならない。

東谷委員：上牧町と河合町で行っていくということだが、上牧町にとって、河合町のかたを受け入れるメリットはあるのか。

担当課：当初は、北葛4町の広域連携に基づき、進めてきた。本町が拠点になっているため、利用しやすいことや、4町がまとまって行うことで、教員を派遣してもらいやすいことのメリットがある。本町だけで行うとなると、新たな枠組みを設定する必要があるため、現在も広域連携の枠組みで続けている。

【16. キャリア教育の実施】

担当課：＜「16. キャリア教育の実施」について説明＞

（意見なし）

○社会教育課

【2. 学習支援教室（まきっ子塾）の開催】

担当課：＜「2. 学習支援教室（まきっ子塾）」の開催について説明＞

渡邊委員：通わせたいが、迎えが難しいといった家庭もおられると思うが、把握はしているか。

担当課：保護者からも聞いているが、子どもの安全を考え、今の形で行っている。学童保育の児童については、学童保育所へ送っている。

渡邊委員：難しいとは思いますが、通いやすくなるような方法を少しずつ考えていってほしい。

副委員長：上牧小学校の参加率が3割前後で、他校に比べて低いが、どのように解釈すればよいか。

担当課：上牧小学校において、参加率が低いことは把握しており、学年個々に募集をかける等の工夫をしている。学童保育所へ通う子どもたちについても、こども未来課と連携して、保護者に声掛けを行っている。

副委員長：地域性等、他に考えられることはあるか。

担当課：特定できていない。現場の声を聞きながら、検証を進め、すべての学校の活性化に努めていきたい。

東谷委員：平成30年から新放課後子ども総合プランが始まっており、このようなプランと組み合わせた枠組みで進めることも検討してはどうか。交付税算入の基準も入ってくる可能性があると思う。

担当課：要件に合致するかどうかは、研究が必要だが、今後の展開として、部局横断的な対応ができれば、まきっ子塾と放課後子どもプランの両者のよいところを持ち合わせた枠組みを検討することも視野に入れている。まきっ子塾については、現在3分の2の補助事業になっている。

東谷委員：学習内容について、学校の延長のような形ではなく、学習の楽しさや必要性を伝えることのできる形で工夫して行ってほしい。今後、子どもたちが1人で学習する力が身につくように、基礎教育として進めてほしい。

担当課：まきっ子塾については、家庭学習の定着を目的に、忙しい保護者のかたの負担軽減も考えている。流れとしては、まずは宿題を行い、その後事務局で作成したプリントを使用して学習をしている。今後は、プリントの内容を工夫するなどして、学習の定着ができるようにしていきたい。

委員長：補助事業ということは、放課後子どもプランの事業か。

担当課：学校地域パートナーシップ事業の中の放課後子ども教室の補助金を使用している。

委員長：アドバイザーとして、地域のかたが多く参加されているのか。

担当課：地域のかたが中心となり、補充という形で県内の大学生にも来ていただいている。

【3.学校を中心としたコミュニティ網の形成】

担当課：<「3.学校を中心としたコミュニティ網の形成」について説明>

副委員長：学校運営協議会制度は、いつ頃の導入を目指しているか。

担当課：学校適正化の方向性が定まる時期を見ながら、時期を検討している。

副委員長：適正化計画が実施されたと同時に、新しい学校を作っていく中で、どのようなしくみが望ましいか、新たな枠組みとして検討していくということでしょうか。

担当課：そのとおりである。

東谷委員：コミュニティ網の形成というのは、地域連携を指していると思う。一方で、学校運営協議会制度は、学校運営に関する意見を校長や教育委員会に述べるなどの役割をもった制度である。地域連携と一緒にしてしまってもよいのか。違う意味での地域連携を謳わなければならないのではないか。

担当課：これまでパートナーシップ事業の中で地域の応援をいただいていたが、学校運営協議会制度の導入にあたり、地域のかたにも学校運営に関わっていただくという指示があった。担当課としても、学校としても、地域のかたにどこまで関わっていただくかは

つきりしておらず、整理していかないといけない段階にきている。県としても、地域の声を聞きながら、学校の現状にあわせて進めていくということで、義務化に至っていない。パートナーシップ事業をもり上げて、学校運営協議会をつくり上げるところもあれば、新しい学校とともに新しい枠組みとして学校運営協議会を立ち上げる方法もある。本町にとってのよい方法を今後協議をしながら考えていきたい。

東谷委員：小学校の適正化が決まった時点で、何年以内にこういうことをするという計画を立てておかないと、いつまでも曖昧なままになってしまうと思う。

担当課：適正化の決定を待たずしても枠組みの設計はできるが、適正化を一定の目標として取り組んでいく姿勢も必要である。現在、それぞれの地域で構築されているものを土台として、どれだけのコンテンツを盛り込むことで、有効な制度運営ができるのか、事務局で調査研究を行っている。類似団体の取組も参考にしながら、進めていきたい。

委員長：小学校区が母体となって、地域のコミュニティ網が形成されていると思うので、小学校統廃合とともに、そのコミュニティをどう引き継ぎ、発展させていくかが、大切になってくる。

【4. 学校支援事業の運営】

担当課：＜「4. 学校支援事業の運営」について説明＞

（意見なし）

【5. 人権教育の推進】

担当課：＜「5. 人権教育の推進」について説明＞

副委員長：指導者研修会には、どのようなかたが参加される予定か。

担当課：人権教育推進協議会の理事、具体的には関係機関の代表のかた（社会教育委員会議、民生児童委員等）を予定している。内容によっては、広報等で周知し、住民のかたに参加していただくこともあるが、フィールドワーク等は人数制限もあるので、対象を絞って行っている。

副委員長：心無い問合せ等が実際にあるということか

担当課：同和地区問合せ、ツイッター等への差別発言の投稿、障害者差別につながる落書き等、計5件の差別事象があった。

副委員長：声を上げて、多くのかたに考える機会をもってもらいたいと思う。様々な機関と協力して、働きかけを行ってもらいたい。

【14. 様々な専門講座の開催】

担当課：＜「14. 様々な専門講座の開催」について説明＞

委員長：理科教室や木工教室等も、社会教育課で企画・運営を行っているか。

担当課：企画・運営は担当課で行っており、講師は町内在住の先生や作家さんに来ていただいている。

【15. スポーツ教室や野外活動教室の開催】

担当課：＜「15. スポーツ教室や野外活動教室の開催」について説明＞

（意見なし）

【32. 史跡上牧久渡古墳群を中心とした文化財の保存及び整備の推進】

担当課 : <「32. 史跡上牧久渡古墳群を中心とした文化財の保存及び整備の推進」について説明>

副委員長 : 歴史ガイドボランティアについて、20人の目標に対し、17人になっているが、ボランティア認定はされているのか。

担当課 : 認定制度は設けていないが、月1回養成講座を実施しており、積極的に参加していただいているかたにお願いしている。

副委員長 : 新規で加入されるかたもおられるか。

担当課 : 高齢で辞めるかたもおられるが、毎年新規募集を行い、加入して下さるかたもいるので、維持できている。現在は17人。

副委員長 : 認定制度等を設けて、参加していただいたかたにメリットがあるような工夫をしてはどうか。

担当課 : 名札やベストを着用して活動してもらっているが、認定証の発行についても検討していきたい。

【社会教育課全体を通して】

委員長 : 細かな事業が多くみられるので、場合によっては、行政がしないといけないこと、他でもできることを検討してもよいのではないかと思う。

○まちづくり推進課

【23. 空き家利活用の推進】

担当課 : <「23. 空き家利活用の推進」について説明>

東谷委員 : 管理放棄地が増えてきている現状があるので、空き地にも目を向けてほしい。現在空き地となっている場所を調査し、きちんと把握する必要があると思う。

担当課 : 空き地の関係課と連携を図りながら、管理不全の空き地をしっかりと管理し、空き地バンクの促進もしていきたい。

東谷委員 : 所有者として、空き地バンクに登録した場合、どのように進んでいくのかが気になる場所である。こういった流れで、役場として何を手助けできるかを図式化するなどして、簡単にわかるように示してもらいたい。

担当課 : 空き地の利活用の案内について、今後こういった形で活用されていくのかが不透明な部分があるので、空き家と同様に、活用事例とあわせて、見える化していきたい。

委員長 : 空き家利活用の推進を空き家バンクだけで進めていくことは難しいと思う。登録しない理由、しにくい理由もあると思うので、もう少し広く進めていくのがよいのではないか。

担当課 : 空き家バンク以外の利活用についても考えていきたい。

委員長 : 空き家コンシェルジュにも相談してみるとよいと思う。

【25. 上牧町交通網対策検討会の開催】

担当課 : <「25. 上牧町交通網対策検討会の開催」について説明>

副委員長 : 町内に駅がないということで、奈良交通のバスが中心だと思うが、本数が減っていた

り、連携がうまくとれていなかったりするといった意見があるので、交通網対策検討会の必要があると思う。なぜ、開催されていないのか。

担当課：連携ができないということではない。本数を増やしてほしい等の自治会からの要望は、個別に奈良交通に相談している。しかし、本町では補填しているルートがなく、民間事業でもあるため、増便にこたえるのが難しいということは聞いている。

副委員長：地域公共交通会議はどういった内容か。なぜ開催できないのか。

担当課：現時点では、協議会が設立されていない。設立にあたり、委員の選定を行っていく必要があり、どういったかたに入っていただくのが望ましいのか、他市町村を参考にしながら進めていきたい。

副委員長：会ができたとしても、何を議論するかが大切になってくる。何を議論して、どのような計画を作ろうと考えているのか。

担当課：地域公共交通計画を作成するにあたり、協議会を立ち上げている自治体が多いので、まずは、地域公共交通計画を立てる必要があるのか考えていかなければならない。

副委員長：地域公共交通計画には、どういった内容を記載するのか。

担当課：地域公共交通計画では、上位計画の施策の整理、地域の現状、移動特性やニーズの把握、存続の網形成計画、基本方針の記載等が挙げられる。

副委員長：類似団体と比較を行いながら、考えていかなければならないということであるか。これを今年度行うということか。

担当課：まずは、庁内関係部署で課題を検討する場を設ける予定をしている。

副委員長：住民のニーズも高いと思うので、早急に進めてもらいたい。

東谷委員：人口減少の食い止めは、地域交通の整備にかかっていると思う。立地条件としては問題ないと思うので、公共交通機関の整備に力をいれてもらいたい。

委員長：交通問題をどうするかが、最大の課題になってくる。本町だけで完結させるのは難しいが、ここを解決しないと人口減少を食い止め、若者を呼び込むことは、難しいと思うので、早急に対応してもらいたい。

ベンチ設置費用が入っているが、このシートに直接関係ないのではないか。入れることが適切であるのか再度検討してほしい。

【27. 観光プログラムの企画・周知・運営】

担当課：<「27. 観光プログラムの企画・周知・運営」について説明>

副委員長：ひまわりウォークを実施したということで、今後魅力発信ツアーを行っていく意思があるように読み取ることができるが、どういった方向で考えているか。

担当課：本町にも観光資源・スポットがあることを知っていただくために、独自でツアーを行う計画をしている。

副委員長：町の職員で行うのか。一定の予算をつけて、外部委託して行うのか。

担当課：それらも踏まえ、今後検討していく。

【33. 滝川を活用したにぎわい創出事業】

担当課：<「33. 滝川を活用したにぎわい創出事業」について説明>

(意見なし)

3. その他

- ・事務局から次回の委員会は、1月に開催する予定である旨の説明を行った。

4. 閉会

以上